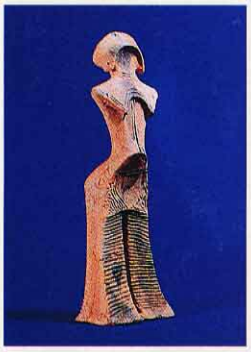
ISSN 1341－4046

埋文やまがた

1995年3月31日
創刊号

財団法人　山形県埋蔵文化財センター広報誌

センター近景



西ノ前遺跡出土土偶

このマークは、Ymagata Prefecture Archaeolgy Centerの頭文字を基にデザインしたものです。特にYは、舟形町西ノ前遺跡から出土した山形土偶（左写真）をイメージしたものです。また、カラーは命の根源である山形の自然、大地・山・河を表し、そこから培われた文化を象徴したものです。

交通案内

JR山形新幹線、奥羽本線山形駅下車　車で20分
〃　かみのやま温泉駅下車　車で10分
東北横断道酒田線山形蔵王ICより　車で30分

財団法人 山形県埋蔵文化財センター
YAMAGATA PREFECTURE ARCHAEOLOGY CENTER

〒999-31　山形県上山市弁天二丁目15番1号　TEL 0236-72-5301㈹　FAX 0236-72-5586

創刊にあたって

財団法人　山形県埋蔵文化財センター
理事長　木　場　清　耕

山形県は豊かで美しい自然と歴史的風土に恵まれ、日本最大の土偶を出土した西ノ前遺跡や、縄紋クッキーで有名な押出遺跡など、全国的に注目を受けている遺跡が数多く存在しています。

これらの遺跡は県民のかけがえのない歴史自然文化遺産であり、現代に生きる私達はこれらを大切に保護し、未来に伝えていかなければなりません。

近年、山形県でも道路建設や、ほ場整備事業、宅地造成事業など、大規模公共開発事業が増加してきており、これらの事業に伴う発掘調査も急増の傾向にあります。

このような状況から本県では文化財保護と県土発展との両立を図る適切な対処が求められ、平成５年度に財団法人山形県埋蔵文化財センターが設立されました。

センターでは県民の文化向上と地域文化の振興に寄与するため、埋蔵文化財についての調査・研究のほか、県民の皆様に対し、情報サービスや資料の提供などをおこないたいと考えています。その一環として、このたびセンターの広報誌「埋文やまがた」を発行することとなりました。職員一同文化財に対する事業の推進と向上に努力してまいりたいと存じておりますので皆様のご指導とご協力をお願い申し上げます。

センター設立の経緯と活動内容

山形県教育委員会における埋蔵文化財の調査は、昭和48年より県文化課で実施してまいりました。事業者による調査費用負担制度が確立した昭和54年からは「山形県埋蔵文化財緊急調査団」（団長柏倉亮吉）に調査を委託し、県文化課の職員が同調査団に兼務する形で業務をおこなってきました。

その後、国や県などの公共事業の増加にともない平成３・４年度に山形県埋蔵文化財調査体制検討委員会を設け検討した結果、平成５年度に財団法人山形県埋蔵文化財センターを設立することになったものです。

センターの組織は理事などの役員と事務局（総務課と調査研究課の二課）で構成されています。山形県における埋蔵文化財調査研究の中核として、国・県などの公共開発事業にかかわる遺跡の発掘調査や研究・普及などの事業に当っています。

当センターの事務所は、上山市弁天にある旧県立上山農業高等学校の跡地を利用しています。これにより、分散していた出土文化財を一ケ所に集めて資料の保管をはかることができるようになりました。

近年、埋蔵文化財センターの整備を進めることが第

４次山形県教育振興計画などでも提言されております。当センターとしては今後とも県民の皆様に対し、埋蔵文化財情報や資料の提供などに努めてまいります。

平成５年度埋蔵文化財センター発掘調査実績

遺跡名	所在地	調査原因	調査期間（日数）	調査面積㎡	調査成果
◆県農林					
宮の前遺跡	村山市大字富並字宮の前	県営ほ場整備事業（富並地区）	5／11～9／10（83）	4,500	縄紋時代晩期の大集落跡。数百点の完全な形の土器が出土
升川遺跡	遊佐町大字直世字升川	〃　（高瀬川地区）	8／3～9／17（27）	2,000	鎌倉時代の建物跡が整然と配置。中国産磁器も注目される
木原遺跡	遊佐町大字宮田字木原、高田	〃　（月光川下流地区）	5／11～7／30（59）	6,000	平安時代建物跡６棟検出。火山灰分析による時期推定可能
五百刈遺跡	鶴岡市大字下川字五百刈	〃　（下川地区）	7／26～8／25（20）	1,000	平安時代の地層の下に、古墳時代の住居跡を３棟検出
松原遺跡	米沢市大字関根字白旗、松原	県農免道路整備事業	6／21～9／1（24）	604	縄紋時代前期の住居跡を６棟検出
小計				14,104	
◆県土木					
押切遺跡	天童市大字高木字押切	主要地方道山形天童線改良工事	5／7～7／29（59）	4,000	平安時代の住居跡６棟と建物跡１棟を検出
西谷地遺跡	鶴岡市大字下川字西谷地	主要地方道酒田鶴岡線改良工事	5／11～7／20（50）	3,400	平安時代の合口カメ棺と井戸跡を検出
弓張平Ⅱ遺跡	西川町大字志津字姥ケ岳	都市公園整備事業	8／2～9／8（22）	300	石器がまとまって出土する旧石器時代のキャンプ地
岡ノ台遺跡	白鷹町大字畔藤字岡ノ台	一般国道287号道路改良工事	5／11～11／19（67）	3,017	縄紋から平安時代までの複合遺跡
黒藤館跡	白鷹町大字畔藤字字館ノ内	一般県道南陽白鷹線緊急地方道路整備事業	7／26～10／1（41）	2,770	・古墳時代前期の方形周溝墓を３基並んで検出
小計				14,687	
◆県教委					
亀ケ崎城跡	酒田市亀ケ崎１丁目	県立高等学校校舎等整備事業（体育館）	5／11～8／4（63）	4,080	庄内藩亀ケ崎城の城代家老屋敷跡確認。陶磁器の量も豊富
藤島城跡	藤島町大字古楯跡	〃　（温室）	8／23～10／20（30）	1,080	藤島城本丸の土塁と溝跡を検出
小計				5,160	
◆住宅公社					
今塚遺跡	山形市大字今塚	宅地造成及び分譲住宅建設	5／31～11／12（110）	14,200	古墳時代他の住居跡27棟と仁壽３年（853）の木簡発見
小計				14,200	
◆農水省					
蕨台遺跡	八幡町大字下青沢字蕨台	国営農地開発事業鳥海南麓地区	6／7～10／14（77）	5,000	縄紋時代中期から後期の住居跡８棟検出、土偶５点出土
山椒３～５遺跡	平田町大字山椒	〃	5／11～11／30（114）	9,573	縄紋時代の住居跡、奈良時代の土器を焼いた窯跡検出
小計		〃		14,573	
◆建設省					
お仲間林遺跡	西川町大字入間字兵助新田	最上川水系寒河江川直轄砂防事業	5／12～7／29（56）	1,080	石器時代の石器製作跡。石器と剥片２万点出土
古屋敷遺跡	小国町大字網木箱口字古屋敷	建設省横川ダム建設工事	9／13～10／15（19）	760	縄紋時代早期から前期の住居跡５棟検出
小豆澤館	長井市平山字小豆澤	建設省長井ダム建設付替県道工事	5／12～6／17（27）	600	室町時代の館跡の出丸部分を調査
富沢Ⅰ遺跡	寒河江市大字清助新田字富沢	一般国道112号白岩バイパス改築工事	11／24～12／10（13）	600	１次調査のみ大部分は平成６年度
小計				3,040	
◆道公団					
仲台遺跡	朝日村大字熊出字仲台	東北横断自動車道酒田線建設工事	5／12～10／25（108）	4,750	縄紋時代後期、晩期の集落跡の一部を検出
粟山遺跡	朝日村大字熊出字粟山	〃	5／12～7／14（46）	4,725	縄紋時代中期の住居跡３棟検出
畑田・中野遺跡	鶴岡市大字大淀川字畑田中野	〃	5／12～11／19（125）	14,604	県内で数少ない古墳時代前期の集落跡検出
柳沢Ａ遺跡	櫛引町大字西荒屋字柳沢	〃	7／19～9／29（43）	3,200	室町時代の塚跡から完全な形のカメが出土
小計				27,279	
合計				96,443	

平成６年度埋蔵文化財センター発掘調査実績

遺跡名	所在地	調査原因	調査期間（日数）	調査面積㎡	調査成果
◆県農林					
大坪遺跡	遊佐町大字野沢字大坪	県営ほ場整備事業（月光川上流地区）	5／9～9／7（82）	11,200	平安時代９、10世紀の集落　旧河川跡　木簡出土
北日長田遺跡	遊佐町大字北目字長田	〃　（高瀬川地区）	5／10～7／8（44）	3,300	平安時代畝跡 土坑群 建物跡を検出
櫓待遺跡	遊佐町大字北目字櫓待		6／22～6／28（5）	1,000	
堂田遺跡	遊佐町大字北目字堂田	〃　（高瀬川地区）	5／11～7／15（48）	3,800	平安時代建物 倉庫 井戸跡を検出
上高田遺跡	遊佐町大字富岡字上家ノ前	〃　（月光川下流地区）	7／11～9／8（38）	3,000	平安時代の明確な水田区画検出、鍔口検出
木戸下遺跡	遊佐町大字富岡字木戸下		7／19～7／29（7）	1,500	
西谷地遺跡	鶴岡市大字下川字西谷地	〃　（下川地区）	5／9～8／31（77）	7,950	平安時代の掘立柱建物跡検出、溝跡多数出土
西ノ川遺跡	鶴岡市大字下川字谷地	〃	5／9～7／27（57）	4,800	平安時代庶民の生活跡検出 小鍛冶的生産が行われたか
小計				36,550	
◆県土木					
廻り屋遺跡	白鷹町大字荒砥甲字廻り屋	国道287号道路改良工事（畔藤地区）	7／25～10／14（51）	2,600	古墳時代前期を中心として多数の住居跡検出
小計				2,600	
◆県教委					
亀ケ崎城跡	酒田市亀ケ崎１丁目	県立高校校舎等整備事業（実習室）	6／21～8／12（38）	600	近世の城館跡内掘跡検出 陶磁器 槍など出土
小計				600	
◆建設省					
富沢Ⅰ遺跡	寒河江市大字清助新田字富沢	国道112号白岩バイパス改築工事	6／22～10／7（66）	3,500	縄紋時代後期初めの集落　貯蔵穴等多数検出
小計				3,500	
◆道公団鶴岡					
野新田遺跡	朝日村大字中野新田字村表	東北横断自動車道（朝日～酒田間）建設工事	5／10～11／8（118）	11,850	縄紋時代中期の大規模な集落跡59棟の建物跡を検出
塔ノ腰遺跡	鶴岡市大字井岡字塔ノ腰	〃	5／9～9／14（87）	8,400	鎌倉時代の建物跡 密集した井戸跡を検出
後田遺跡	鶴岡市寺田字後田	〃	5／9～9／7（63）	14,500	古墳時代から中世にかけての集落跡を検出、卒塔婆多数出土
大道下遺跡	鶴岡市寺田字大道下	〃	5／9～6／10（20）	5,000	
小計				39,750	
◆道公団山形					
横畠遺跡	西川町大字水沢頭鍵立	東北横断自動車道（寒河江～西川間）建設工事	6／6～7／21（34）	750	中世～近世礎石建物跡検出 参詣道脇のお堂か
水沢館跡	西川町大字水沢字沼頭	〃	7／14～10／28（66）	3,462	人工的な平場検出　山頂に曲輪　空堀　土塁あり
山居遺跡	西川町大字水沢字山居	〃	5／12～11／30（132）	5,500	縄紋時代集落跡　複式炉多数検出　大量の石器製作作業場か
高瀬山遺跡	寒河江市大字寒河江字高瀬山	〃	5／11～12／9（137）	19,040	奈良・平安時代の集落跡 竪穴建物跡74棟検出
予備調査	寒河江市、西川町	〃	9／26～12／2（44）	9,365	
小計				38,117	
◆県警					
渋作遺跡	高畠町大字泉岡字中道	高畠警察官派出所新築工事	9／19～10／14（15）	1,200	平安時代の畝跡 川跡検出 9世紀前半の土器出土
小計				1,200	
合計				122,317	

平成５年度　宮の前遺跡

宮の前遺跡は、山形県の中央よりやや北側の村山市富並地区にある縄紋時代のムラの跡です。この遺跡のある土地にはいまから約１万年前の縄紋時代草創期にはじめて人々がすみはじめ、その後約８千年間にわたって人々が住んでいた大きな遺跡であることがわかりました。このムラが最も栄えたのは縄紋時代後期～晩期の約２千年の間で、その当時の人々の生活の様子を知ることの出来る様々な遺構や遺物が発見されました。

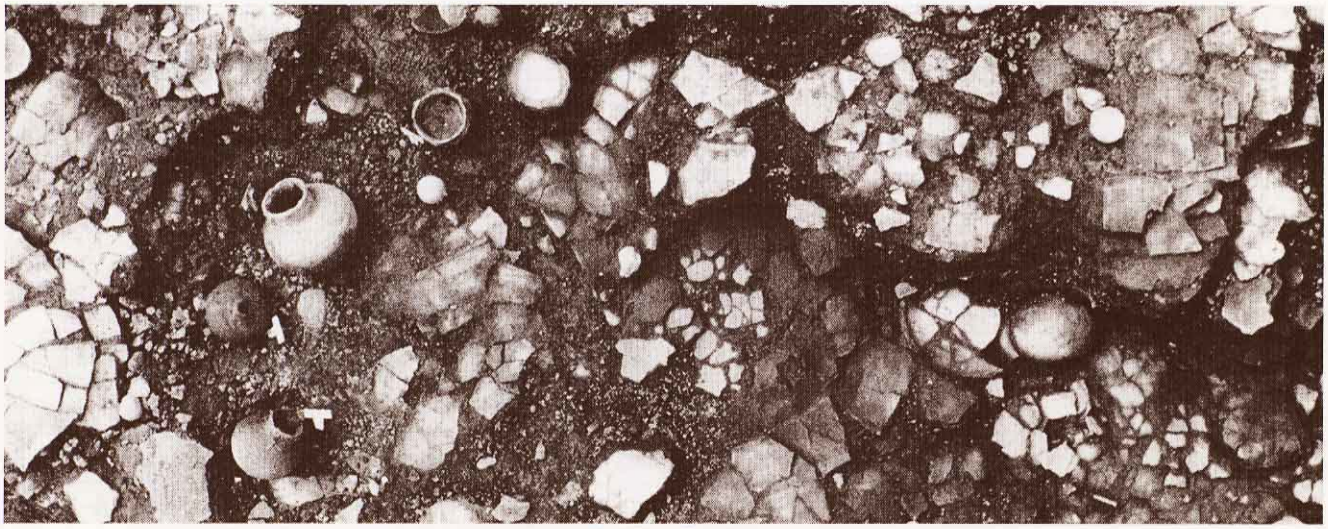
注目されるものとして、縄紋時代の住居跡・土坑・墓坑・土器捨場などの遺構があります。縄紋時代晩期のSK138墓坑からはヒスイと石斧が死者の枕元に添えられたような状態で発見されました。縄紋時代の人々も私達と同じように死者を悼んだことがわかります。土器捨場からは1.4m²ほどの捨てられた土器の層が発見されました。恐らくここには何万点という土器が捨てられているものと思われます。

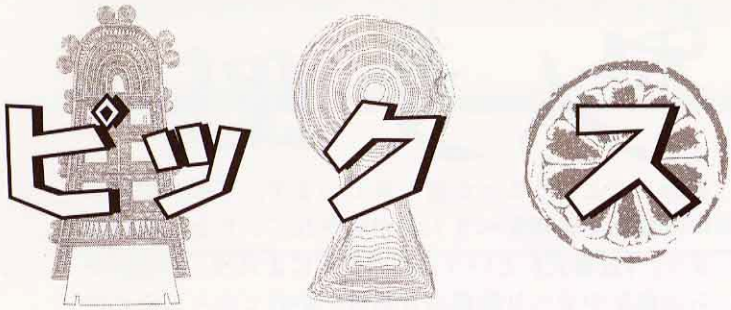
土器や石器など遺物からもいろいろなことがわかりました。関東地方から運ばれた『安行２式』といわれる土器や、新潟県から運ばれたヒスイの装飾品などは、当時であっても活発な交易が行われていたことを教えています。また、人面付土器は人の顔を土器に飾った特殊な土器ですが、発見例は全国的に見ても少なく、当時の精神生活を垣間見ることのできる貴重な遺物です。（山口博之）

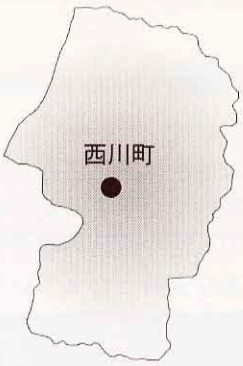
遺跡遠景

人面付土器

香炉型土器


土器捨場



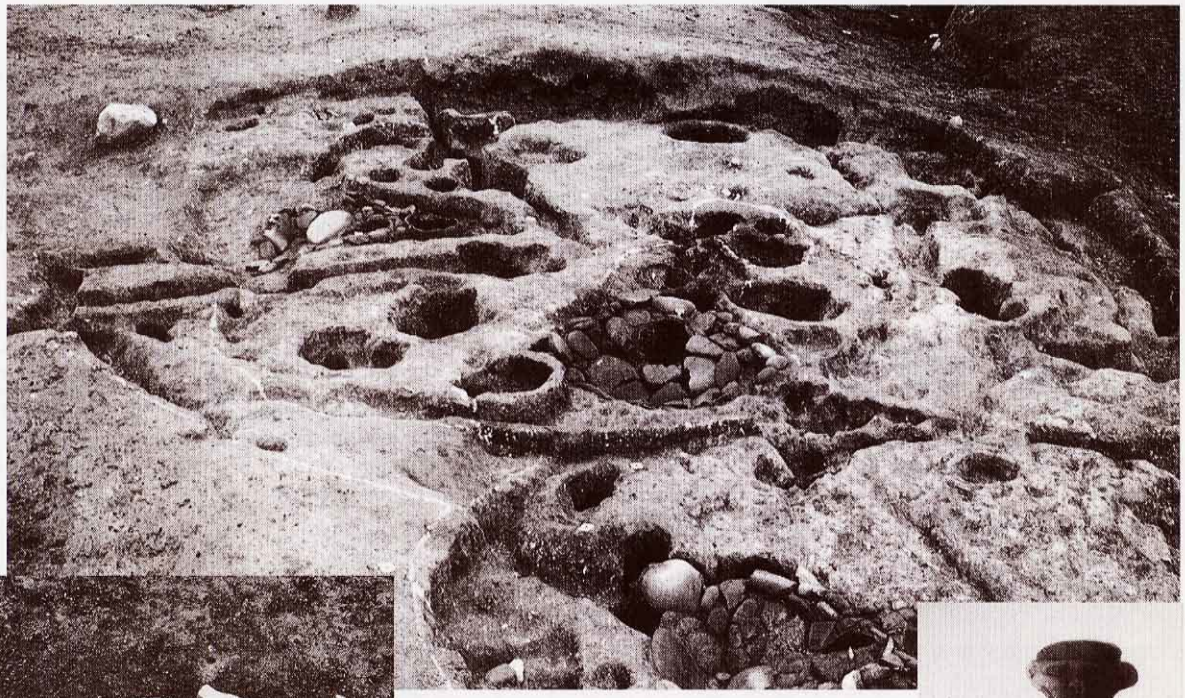


平成６年度　山居（さんきょ）遺跡

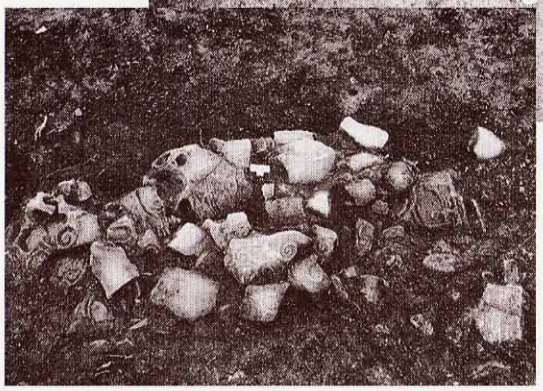
山居遺跡は、西川町をへて庄内へとつながる国道112号沿いの、西川町役場から北西に約４km、水沢川左岸の小高い丘に位置しています。

この遺跡は、今から約4,500年前の縄紋時代のムラの跡です。今回の調査では、昔の人が住んでいた家の跡や倉庫の跡、食べ物を保存したり、ゴミを捨てたりする穴跡、柱を建てていた穴跡などが見つかりました。見つかった家の跡の多くに、土器を埋め、回りを石で囲ったU字型の炉の跡がありました。これは、手前に石で囲った部分と、奥に土器を埋めて作った複数の炉で構成されることにより、複式炉と呼ばれています。現在のいろりに近い、暖房や調理場の役割を持っていたと考えられています。

また、今の皿や鍋のように盛り付けや、煮たり炊いたりに使用した縄目の様々な紋様や粘土の飾りを付けた大小の縄紋土器。動物を狩ったり、木を切り加工したりする、石で作った弓矢の先に付ける石鏃や石槍、石斧やノミ等も見つかりました。ほかにお祈りに使用する人の形をした土偶と石棒や、大きさ５cm程の小さなミニチュア土器も見つかっています。（氏家信行）



住居跡と複式炉跡



土器の出土状況

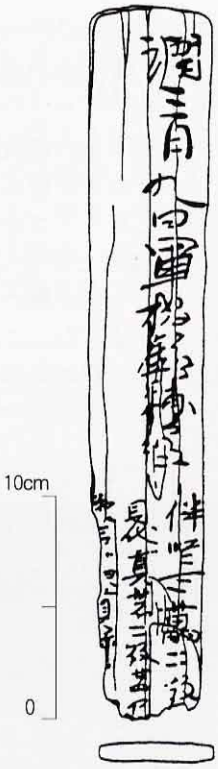
土　偶

大坪遺跡出土　木簡（もっかん）

木簡とは木に墨書されたものをいいます。これまでに県内では平安時代の木簡が数点出土しています。実際の生活や政治の場で使われ、歴史を研究するうえで貴重な資料となっています。遊佐町の大坪遺跡では中央部を蛇行する河川跡から木簡が出土しました。その木簡には閏三月九日に軍□（渡来系の人物か）が伴咋万呂や目代真蓑らの（甘葛煎＝アマツラ）の収穫か甘味料の加工に関して果たすべき仕事（負担）の回数を記録したということが書かれています。下の欠損部分には他にも負担すべき人名が記されていたと推測されます。『延喜式』という当時の書物によれば、出羽国からは毎年中央へ甘味料の甘葛煎を納めており、それを裏付ける木簡と考えられます。年号がありませんが、一緒に出土した土器から９世紀後半と考えられます。

（斎藤俊一）

木簡出土状況



釈文

潤三月九日軍□（福カ）録補役　伴咋万呂　二役（以下欠損）
目代蓑二役□部
□□□真「　」

声の交差点

土器の実測作業をしていて土器を作った人の指の痕を見つけたりすると嬉しくなります。その人のことからその場の周りの様子へと、ひとりでに想像が膨らんでいきます。映像を見るようにいきいきと描けたらさぞ楽しいだろうと思うのですが、残念ながら知識不足です。（整理作業員A.S）

今年は二年目でした。先生や先輩方に教えていただいて数多くの実測ができ、大変勉強になりました。（整理作業員K.S）

作業員として実際に土器に接してからは、新聞やＴＶのニュースで文化財や発掘の事などにいち早く目がとまるようになりました。子供たちを連れ美術館や資料館を回る機会も増え、共通の話題ができて楽しんでいます。（整理作業員Y.S、S.G）

編集後記

センターが設立されてから早、２年が過ぎようとしています。センターの活動をいち早くお知らせしようと計画した広報誌の発刊が、ようやく実現できました。これまで試行錯誤を重ねながら創刊号を刊行できたことは、報告書作成時期にもかかわらず、快く原稿の執筆を快諾して戴いた各調査担当者や、センターの皆様のおかげと感謝しています。創刊号ではセンター設立の経緯と平成５・６年度の活動内容を主に紹介しました。今後とも埋蔵文化財の保護と普及啓発を目標として分かりやすい広報誌を皆様にお届けしたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。（野尻）